

令和5年1月19日

令和4年度 島根県若年性認知症自立支援ネットワーク会議

# 島根県における若年性認知症施策について

島根県高齢者福祉課  
地域包括ケア推進室

- 1 島根県の認知症高齢者
- 2 認知症施策推進大綱
- 3 島根県の認知症施策
- 4 認知症の人や家族の視点を重視した総合的な推進体制
- 5 認知症についての普及啓発
- 6 認知症の方を支える地域づくり
- 7 認知症についての相談対応
- 8 医療・介護の連携体制の整備
- 9 認知症介護サービスの向上
- 10 若年性認知症への対応

© Shimane Prefectural Government

1

1. 相談支援体制の強化  
.....
2. ネットワーク構築  
.....
3. 普及啓発  
.....
4. 本人交流会・集いの場づくり  
.....
5. 若年性認知症実態調査  
.....
6. まとめ  
.....

## 1 相談支援体制の強化

## 若年性認知症支援コーディネーター

- ・平成30年4月～開始
- ・コーディネーター3名
- ・委託先：認知症の人と家族の会島根県支部

## 役割

- ・本人・家族、支援関係機関、企業等からの相談対応
- ・必要な支援制度やサービス等の紹介サービス提供関係機関等との情報共有、支援内容の連絡調整
- ・本人が気軽に利用できる通いの場、集いの場づくり活動
- ・相談件数等 R3：167件（電話105 訪問62）

2021年4月 島根県委託事業

## 若年性認知症相談窓口のお知らせ

65歳未満で発症する認知症を若年性認知症と言います

こんなときは 若年性認知症支援コーディネーターにご相談ください

<b>症状</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 忘れることが多くなった</li> <li>● 仕事でミスや失敗することが目立ってきた</li> <li>● なんだかいつもの自分と違う気がする</li> </ul>	<b>仕事・居場所</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 会社を退職して収入がない、不安だ</li> <li>● 今後も働き続けたい</li> <li>● 行く場所がなく閉じこもり気味である</li> </ul>
<b>受診・診断</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 専門医療機関を受診したい</li> <li>● 受診をさせたいが、本人が拒否をしている</li> <li>● 診断がついたが、会社に話ができない</li> </ul>	<b>制度・サービス情報</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 利用できる制度が分からない</li> <li>● 地域で利用できるサービスが分からない</li> <li>● 情報が見つからない</li> </ul>

**接し方**

- 社員が若年性認知症の診断を受けたが、どう支援したらよいかわからない
- 家族としてどう接してよいかわからない

**しまね若年性認知症相談支援センター**  
 電話相談 月～金 10:00～16:00 TEL 0853-25-7033  
初日、年末年始及びお盆は除く

### コーディネートの主な内容

<b>医療機関</b> 主治医と連携し日常生活について助言。また、専門医療機関や認知症サポート医などの情報を提供します。	<b>社会保障 (経済的な援助)</b> 医療費助成や障害年金など各種社会保障の情報提供および手続きを支援します。	<b>サービス受給</b> 地域で利用できるサービス(社会資源)の情報提供、利用の手続きについて助言します。
<b>権利擁護</b> 財産管理や福祉・介護サービス等の手続きの相談に応じます。	<b>就労支援</b> 職場との調整や再就職について助言します。	

受託団体 公益社団法人 認知症の人と家族の会 島根県支部

# 1 相談支援体制の強化

## 周知と連携促進

【一般向け】街頭啓発、県HP・広報誌に掲載

【関係機関】市町村担当者会議、認知症疾患医療センター連絡会の活用

## 課題

- ① 本人・家族、医療機関等の認知度は十分でない。
- ② 実際に活用される方はまだまだ少ない。
- ③ 就労時からの相談が少ない

## 近年の取り組み

- 研修会(県商工会連合会R4.2.5/両立支援コーディネーター事例検討会R4.11.22)など  
若年性認知症における基礎知識等、職場での適切な対応など(講師:支援コーディネーター)
- 企業への周知(相談支援センターリーフレット)  
県商工会連合会・商工会への配付、障がい者雇用促進フォーラム(10月)での配付
- コーディネーター支援事例の作成、周知  
医療福祉サービス利用、就労経済面の支援、交流機会の提供といった支援事例 →  
(県ホームページに掲載)



# 1 相談支援体制の強化

## 相談・サービスガイドブック

### ①特徴

- 各種相談窓口や制度・施策の案内、紹介
- 支援コーディネーターや市町村、島根県若年性認知症自立支援ネットワーク(述)と協議、連携し作成
- 大府センター作成のハンドブックと役割分担

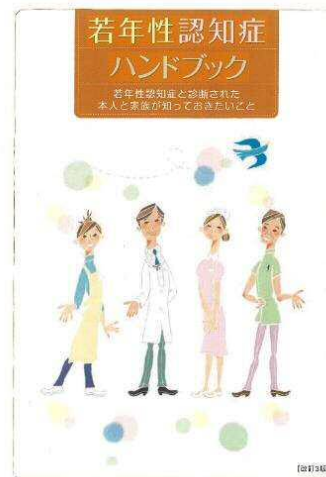


### ②活用・周知

- 市町村の窓口、県内の医療機関等への配布
- 県HPへ掲載。デジタルブックも作成

### 【今年度の取組】

- ガイドブックの案内と活用の周知  
会議や研修会等を利用した案内  
5月現在、関係機関へ送付済み



【大府センター】  
若年性認知症とは？



【島根県】 県内の相談先、  
窓口等の紹介



# 10 若年性認知症への対応

## 2 若年性認知症支援ネットワーク構築事業

### 若年性認知症自立支援ネットワーク会議

#### 【ネットワーク会議構成機関】

- ・ 若年性認知症支援コーディネーター
- ・ 認知症サポート医
- ・ 高次脳機能障がい地域支援拠点
- ・ 認知症疾患医療センター
- ・ 精神保健福祉士会
- ・ 地域両立支援推進チーム
- ・ 両立支援コーディネーター
- ・ 島根県経営者協会
- ・ 島根労働局
- ・ 地域包括支援センター
- ・ 市町村
- ・ 島根県

支援CDが関わった「個別ケース」を共有しながら、より実効性ある支援を検討していきます。

**R4年度 若年性認知症ネットワーク事業**

### 島根県若年性認知症自立支援ネットワーク会議

～個別ケースからの気づき～ **参加無料**

**日時** 令和5年1月19日(木) 13:30～15:30

**形式** オンライン (Zoom) による一般公開型 お申込みは裏面QRコードからどうぞ

**構成** 認知症疾患医療センター (医師・相談員) / 居宅介護支援事業所 / 島根県地域包括支援センター連絡会 / 島根県経営者協会 / 島根労働局 / 島根県産業保険総合支援センター / 市町村認知症事業担当者 / 認知症地域支援推進員 / 島根県若年性認知症支援コーディネーター 等

**若年性認知症を知っていますか?**

専門相談窓口とは  
認知症の疑いがある人(家族)と本人、近親者で構成し、認知症を「早期発見・早期対応」を図ります。認知症の疑いがある人(家族)と本人、近親者で構成し、認知症を「早期発見・早期対応」を図ります。

島根県若年性認知症自立支援センター  
電話相談 TEL.0853-25-7033  
山陰中央新報掲載「暮らしの足跡」より

## 3 普及啓発

### 認知症サポーターキャラバン事業

「痴呆」→「認知症」への変更を契機に2004年からスタート。  
「認知症サポーター」を全国で養成し、認知症になっても安心して暮らせるまちを目指す。

#### 認知症サポーター

「認知症サポーター養成講座」を受講した、認知症に関する正しい知識と理解を持ち、地域や職域で認知症の人や家族に対して、できる範囲での手助けをする人。

#### キャラバン・メイト

「キャラバン・メイト養成研修」を修了した、「認知症サポーター養成講座」の講師役を務めることのできる人。

	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
認知症サポーター	73,016	81,522	87,125	90,547	93,395
キャラバン・メイト	1,722	1,533	1,592	1,609	1,572
計	74,738	83,055	88,717	92,156	94,967
非活動メイト	930	784	814	827	825

資料：全国キャラバン・メイト連絡協議会（各年度末現在）

### 3 普及啓発

#### 動画・マンガ



YouTube(県公式チャンネル)にもアップ

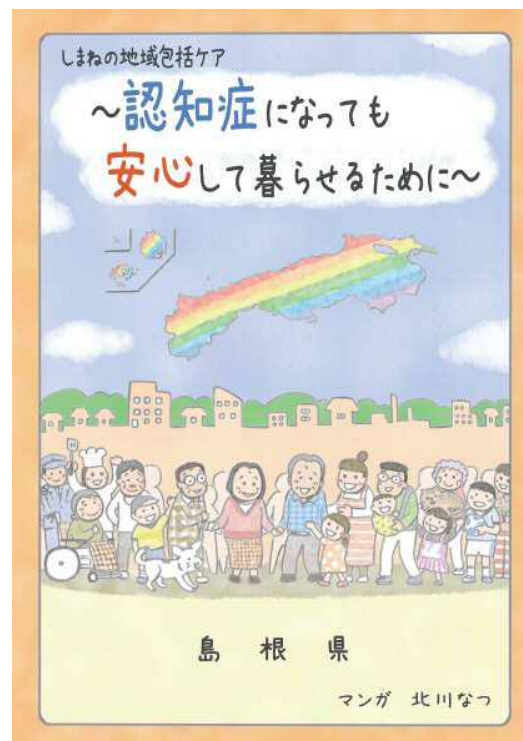
QRコードからアクセス→



QRコードからデジタルブックをご覧になれます。

しまねの地域包括ケア

検索



介護施設での勤務経験がある作家 北川なつ氏 に作成をお願いしたオリジナルマンガです。

県内図書館など幅広く配布しており、多くの方に活用されています。





### 3 普及啓発

#### 認知症に関する図書展示

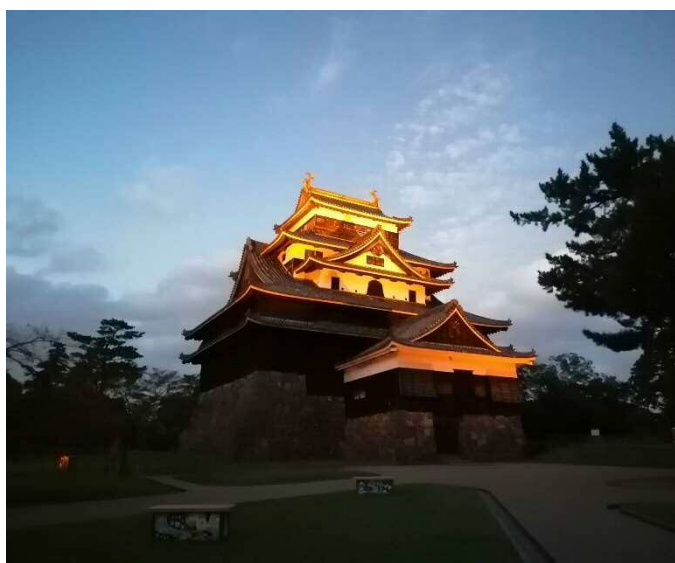
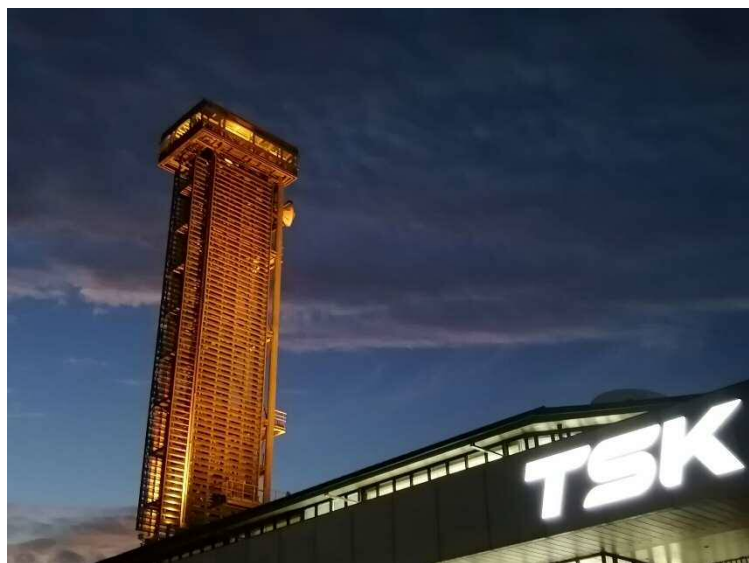
島根県立図書館の展示スペースを活用し、認知症関連の書籍やチラシ等の啓発物を展示。



### 3 普及啓発

オレンジライトアップ企画  
(主催：公益財団法人認知症の人と家族の会島根県支部)

世界アルツハイマーデーにあわせて、松江城、TSK本社テレビ塔、グラントワを認知症支援のイメージカラーであるオレンジ色にライトアップ。





### 3 普及啓発

## 世界アルツハイマーデー 一畑電車 & RUN伴いずも



9月21日は世界アルツハイマーデーです。  
この度、一畑電車（株）様のご協力を得て、9月17日（1日限定）で、  
電鉄出雲市駅～出雲大社駅間のオレンジカラー車両の広告ジャックが実現！  
それにあわせて、両駅の前で認知症の啓発活動をするようになりました！



オレンジカラーの1000系



車内の中吊り広告を  
ジャック！

車内イメージ

### オレンジカラーの一畑電車で出雲大社へ行きませんか？

〔詳細〕

9月17日（土）	12：00	電鉄出雲市駅前	集合	～啓発活動～
	12：50	電鉄出雲市駅	出発	
		出雲大社前駅	到着	～啓発活動～
				～出雲大社参拝～
	15：45	出雲大社前駅	出発	
	16：02	電鉄出雲市駅	到着	（のち解散）

※ 往復運賃：1,000円

※ オレンジ色のシャツを着用してお越し下さい（お持ちでない方は当日お貸しします）

参加申込：TEL（0853-25-0717）

共催：認知症の人と家族の会島根県支部、RUN伴いずも  
協力：一畑電車株式会社



## 10 若年性認知症への対応

### 4 本人交流会・集いの場づくり

本人が集まり、本人同士で自らの体験や必要なことを話し合い、その内容を発信、施策に反映する機会がある市町村

2

ピアサポーター<sup>(※)</sup>による本人支援の活動を行っている市町村

※先に認知症の診断を受け、その不安を乗り越え前向きに明るく生きてきて思いを共有できる認知症本人

0

※令和3年度末の状況  
資料：厚生労働省「令和3年度及び令和4年度当初認知症総合支援事業等実施状況調べ」

## 4 本人交流会・集いの場づくり

### 若年性認知症支援コーディネーターによる取り組み

#### ①交流会の開催

若年性認知症の人や家族が交流できる場づくり

たとえば、講演会とあわせてミニ交流会を開くなど、ご本人やご家族が参加しやすい雰囲気気をくばりながら、「場づくり」を進めています。



#### ②若年性認知症の人と家族の集い「まいるど」 (H30～)

「穏やかにゆっくりと前に向かって進んで行こう」という趣旨から命名。

支援コーディネーターと認知症の人と家族の会県支部各地区会が連携し開催。

(まいるど東部／まいるど西部)





## 4 本人交流会・集いの場づくり

### 市町村などによる取り組み

講演会、集い、調査等を実施し、市町村担当者会などで共有。

R4.11.20出雲市で講演会（丹野智文 氏）を実施

R4.12. 3安来市で講演会（丹野智文 氏 山中しのぶ 氏）を実施。

### 山陰ど真ん中プロジェクト（R1～）

鳥取・島根にまたがる中海圏域を主な対象に本人交流会を開催（認知症の人と家族の会鳥取県支部、安来市地域包括支援センター）



そば打ち



ヨガ体験

R1年度は米子市と安来市で持ち回り開催していたが、R2年度以降はコロナ禍のため、安来市での開催は見合わせている状況です。R4.12.3安来市では認知症講演会を実施。

## 5 若年性認知症実態調査

### 調査までの流れ

平成21年度国の全国疫学調査に基づく  
有病率（推計値）

有病率 47.6人／10万人

全国： 37,800人

島根県：約170人

令和2年度国の全国疫学調査に基づく  
有病率（推計値）

有病率 50.9人/人口10万人

全国： 35,700人

島根県：約197人

平成28年度若年性認知症実態調査（島根県）

【調査対象】

県内全ての病院（51カ所）

精神科・神経内科、脳神経外科を標榜  
する診療所（87カ所）

【調査内容（抜粋）】

H27年4月1日～H28年3月31日に  
通院・入院した65歳未満の認知症患者

【回収率】 82/138（59%）

【受診有り】 31/82（38%）

【受診者数】 **109人**

## 5 若年性認知症実態調査

### 実態調査報告書

# 若年性認知症の有病者数 ・生活実態に関する調査

島根県健康福祉部 高齢者福祉課  
地域包括ケア推進室

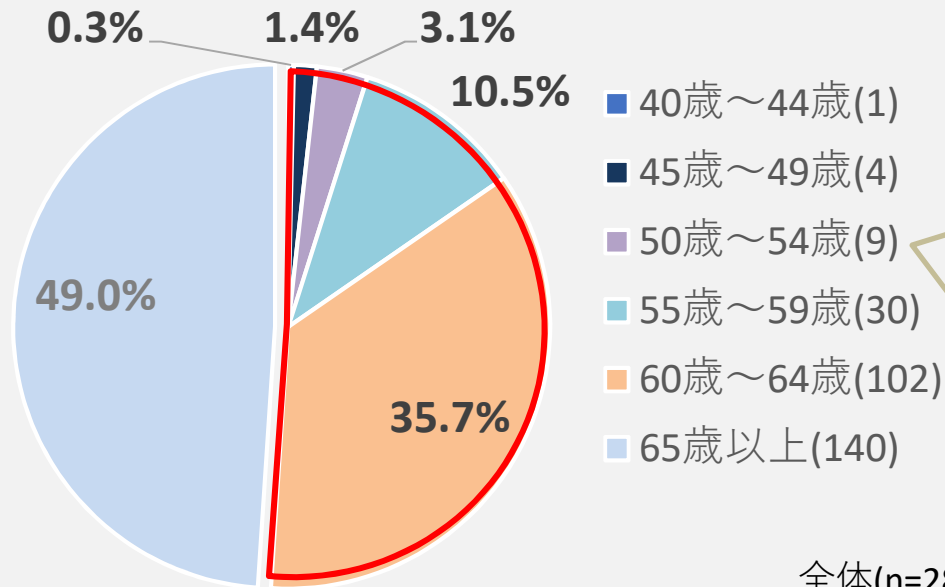


「しまねの地域包括ケア」ポータルサイト開設



QRコード  
携帯電話で  
ホームページに  
アクセスできます。

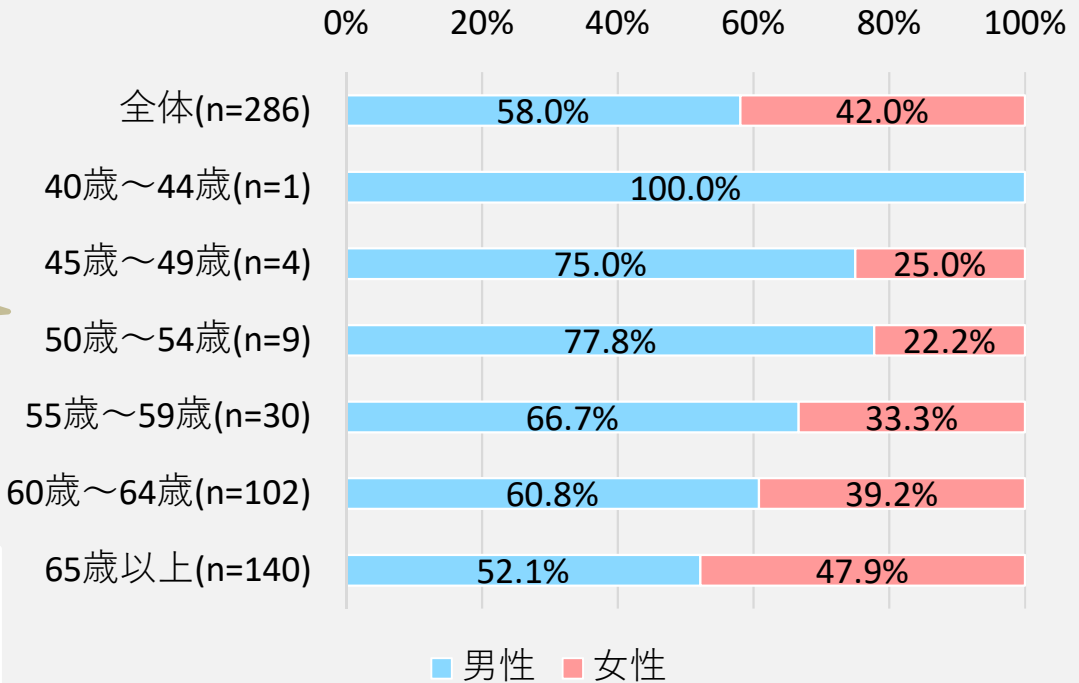
## 1. 若年性認知症の有病者数



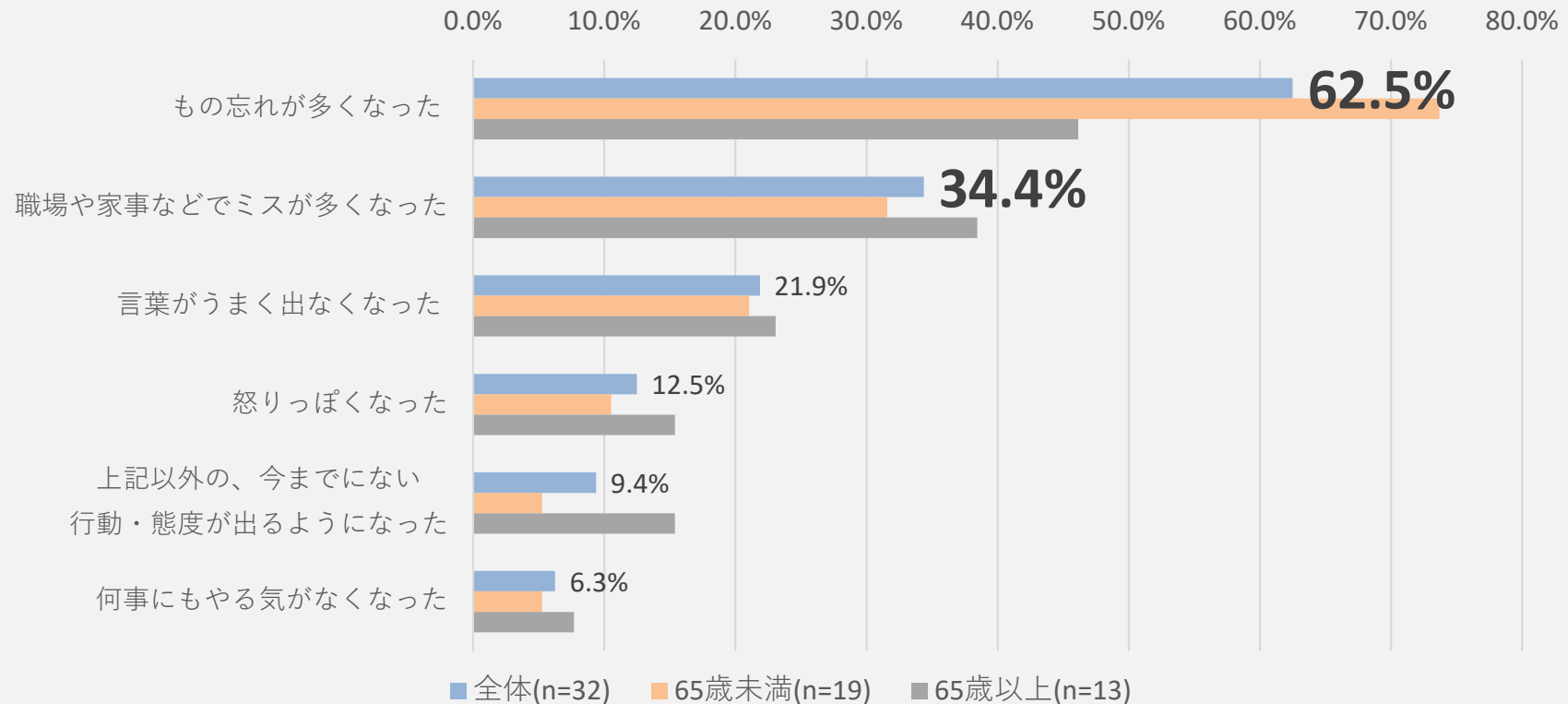
・全体286人うち65歳未満146人であった(146人÷79.4%(島根県調査の回答率)≒184人)。  
 ・40歳未満はおらず、年齢階級が上がるにつれ、増加

全国調査同様、男性の割合が高い

本調査は、令和3年1月1日時点での年齢をもとに、65歳未満、65歳以上で集計



## 2. 最初に気づいた症状

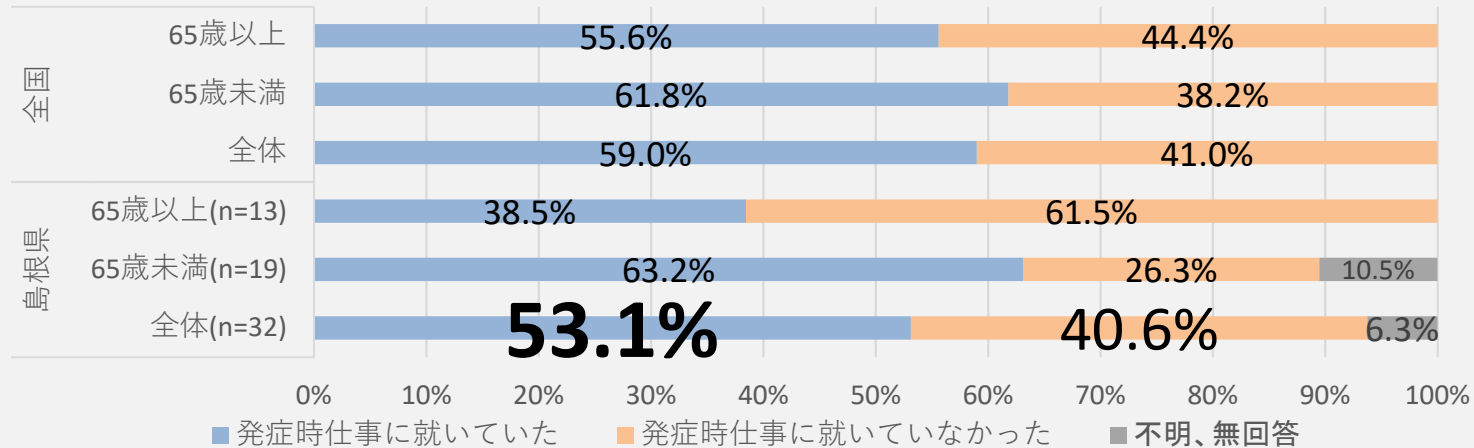


「もの忘れが多くなった」「職場や家事などでミスが多くなった」「言葉がうまく出なくなった」の順で多かった。

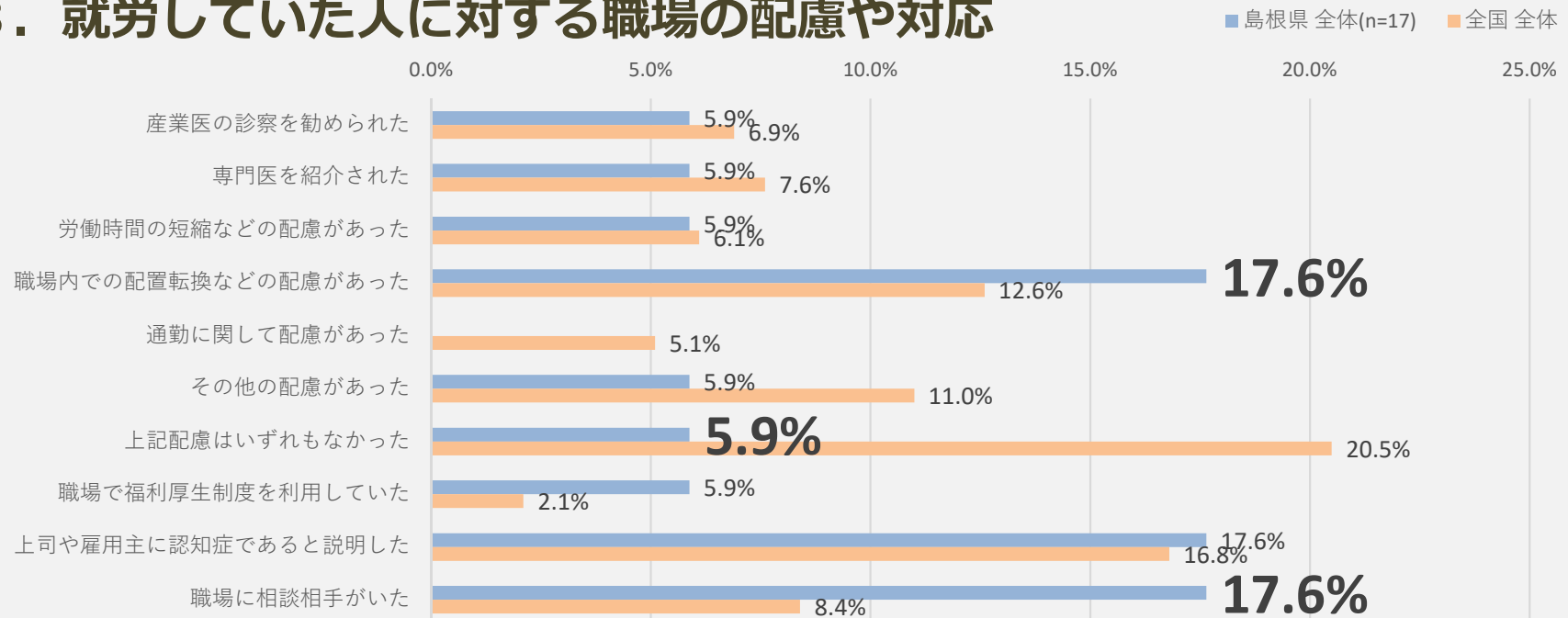


# 実態調査報告書

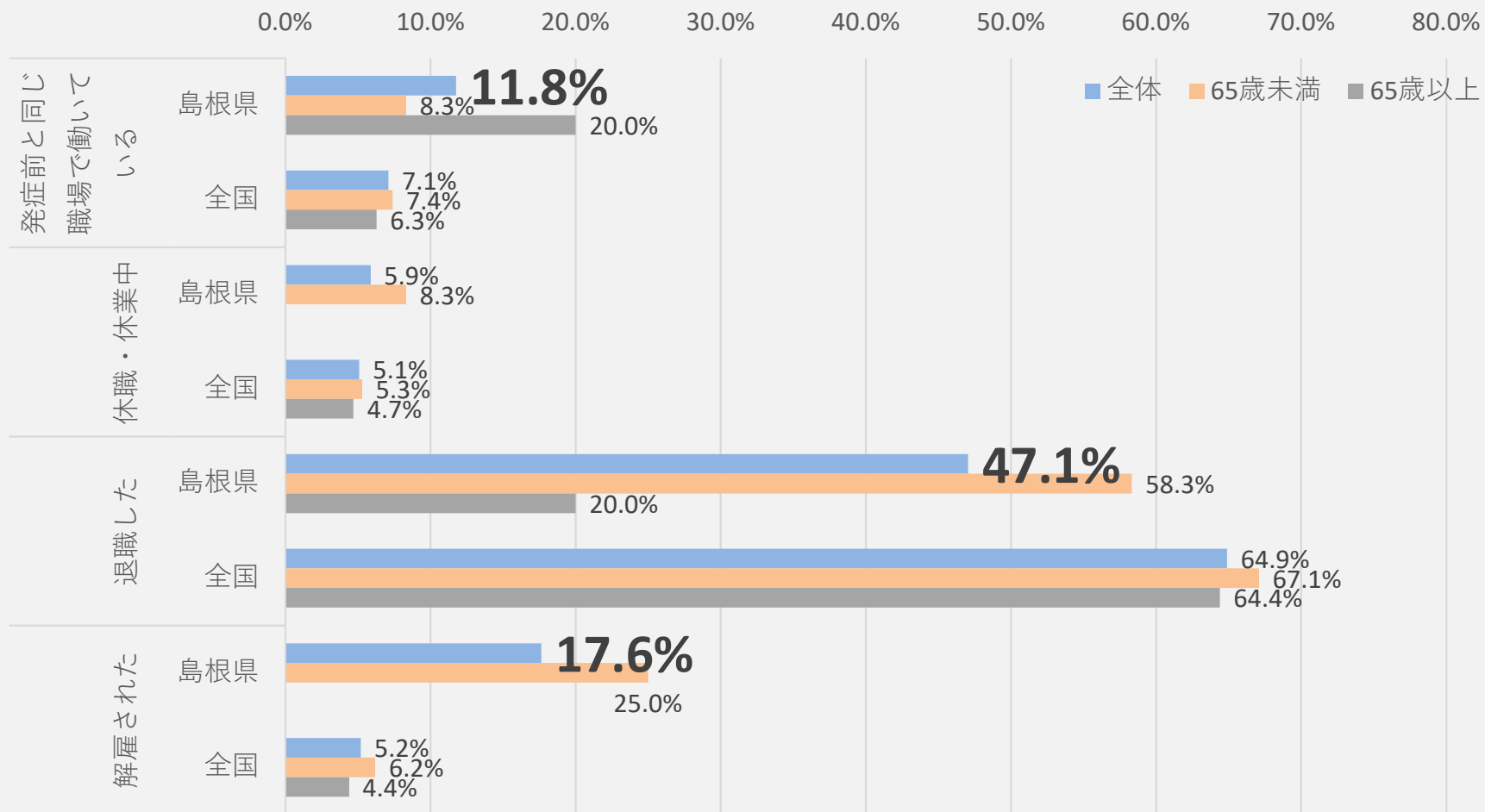
## 2. 発症時の就労形態



## 3. 就労していた人に対する職場の配慮や対応



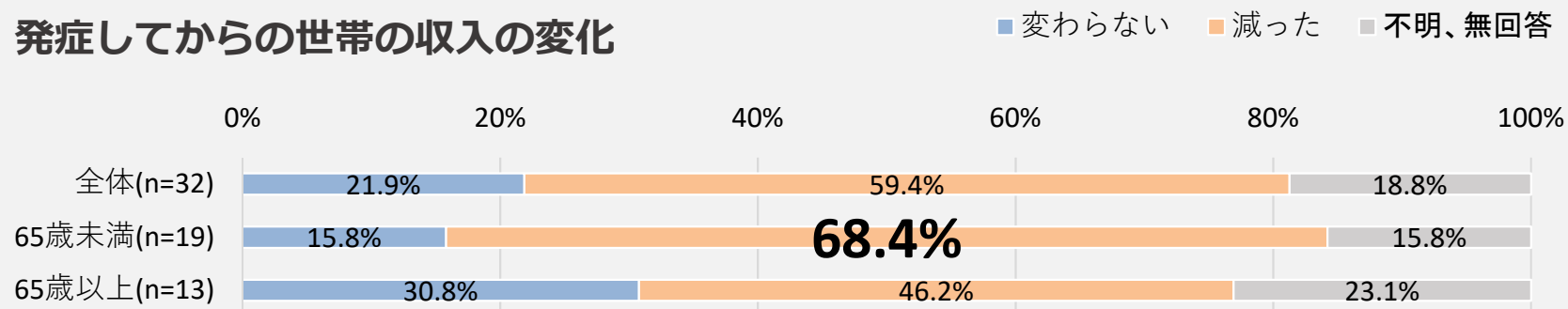
## 4. 発症時の就労形態



47.1%が退職し、17.6%が解雇されている。発症前と同じ職場で働いている人は11.8%にとどまった。

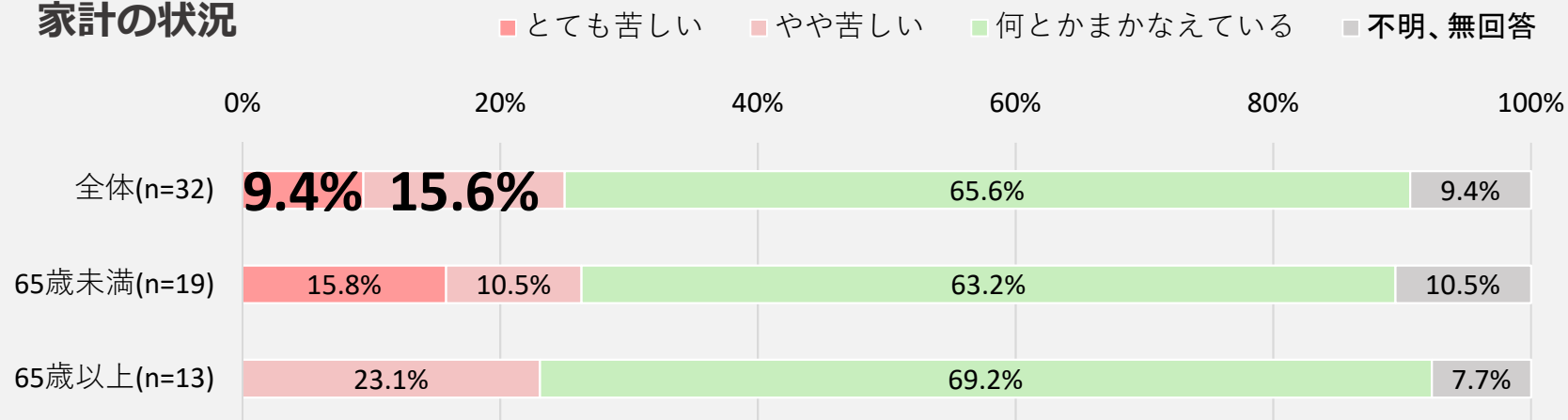
## 5. 家計の状況

### 発症してからの世帯の収入の変化



65歳未満で7割弱が「減った」と回答し、発症と収入の減少に相関がみられる。

### 家計の状況



全体でも25%が「とても苦しい」「やや苦しい」と回答し、苦しい家計状況が垣間見える。

## 6 まとめ

本人や家族が安心して暮らせる地域づくりを目指して

### 各Stepのポイント

#### Step1

本人や家族の視点を重視する視点

〔配偶者の声〕  
大切なことは、病気を隠さずオープンにして助けを求めること。  
〔本人の声〕  
自分の状態がわかるので、病名を知らせてもらうことは賛成。

- 認知症カフェ、本人交流会、家族の集いなどから

#### Step2

若年性認知症に関する普及啓発

個別課題への対応

たとえば、支援コーディネーターの活動を通じて、より効果的な仕組みづくりを検討していく。

- 若年性認知症自立支援ネットワーク会議
- しまね若年性認知症相談支援センター
- 若年性認知症支援コーディネーター など

#### Step3

医療介護・就労支援・市町村等関係者との連携

福祉サイドだけでなく、就労支援の視点も大切にしながら、支援の輪を広げていく。

- 地域住民、企業、医療介護、就労支援等 関係者へ